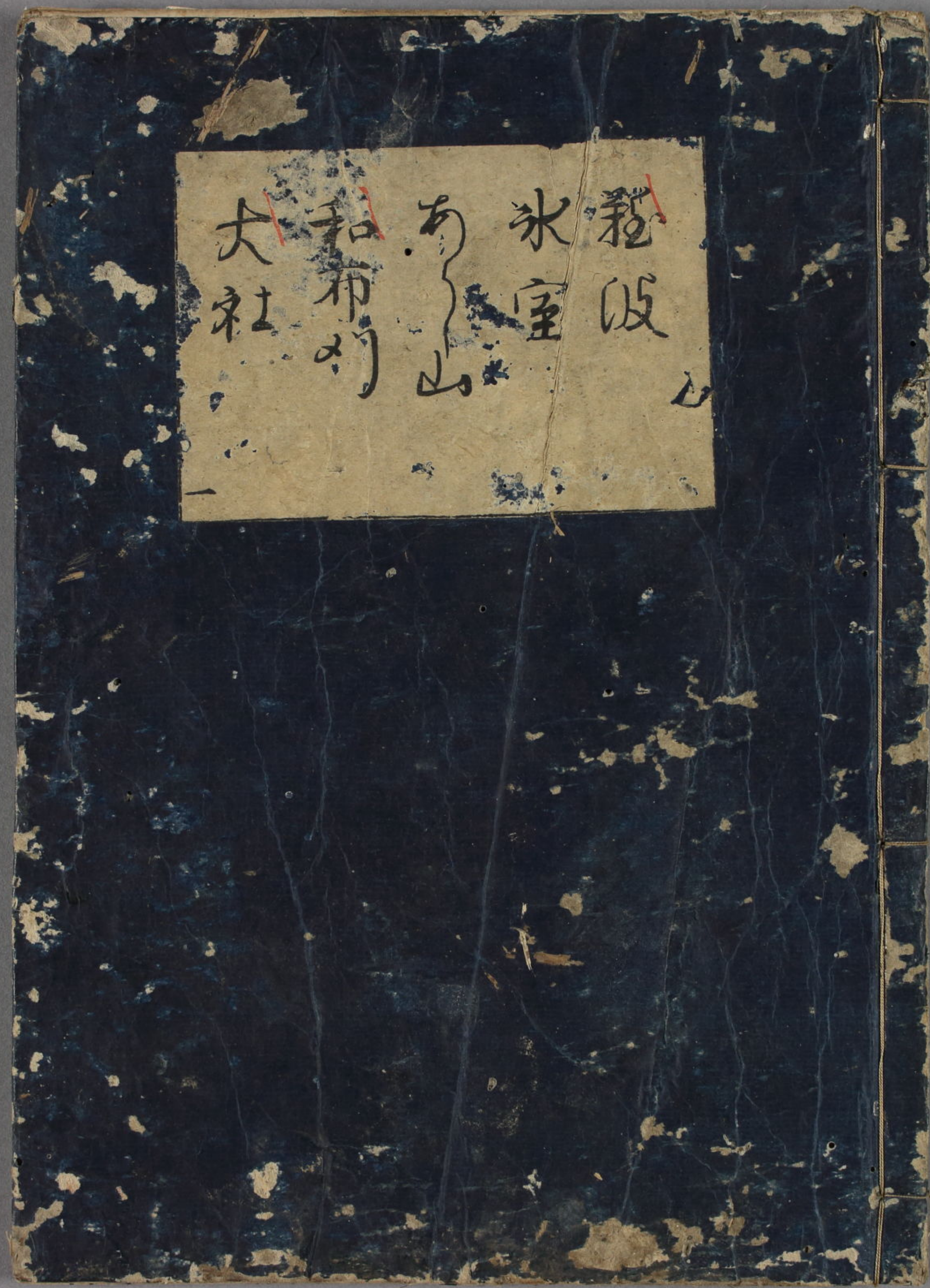




大和町 氷室 蔵版
山



早三夜次

却波

山に霞みく浦のまぐにん

あまけり ねはへ當ふふく

ちり信下ちり。つ建三態野ふ年

ふりり。立ゆるまふあふへ

ふ前くの死ふもあふ心あふ

あふふちやとなふあふ

巻二

心うきなり是よりあはく
 日嗣の貢物にふちりて
 しとあはれ代と行しと
 さて千里のあはれ照る日影
 かくはいつに足あは老人の事
 ねへきものふこあは事と
 作う何ものそいそ
 諸本とて多

中より見ゆる梅は限本陰と云き
まゝて賞翫せしむるも
了。あつたふりていふ
我が女と云ふは
御入の三浦津の
ふりていふ
うへに
あつたふりていふ

このまゝの花の盛なれば
花の中にも初なるまへ梅の花を
これの兄ともいふ 其の梅
つる前く國の前までけきうも
六儀の初なるより奇なるも難波の
梅よりよきまじき
も一葉花とていふ 初なる花乃

かまをいふ ともいふも津國
の小屋の路の難波津より
えくさやこの花とていふ
乃た尋へとていふは花の
乃た初波の梅の事なること
尋へよりなるいふは花の
乃た初波津よりいふは花の

うたひまの舞の曲おもてか
 さあやふしや下つて寺へ
 の下ふはゆふの
 ものあつたての
 うたの声こゝ拍子をとる
 のきこふ事うる
 誰うきまのうたの東より

おこし之成南枝花もさそひく
 宴ハ所も西の海もじり難波の
 雲の夜乃月雪もてぬ浦に良き
 乃并樂ハ面白や夢もさ海にた
 ちあふ目ハ難波津のうらみ
 幸と暦てひくさぬよめ栄花をさ
 ちて北より用耶那の神灵あり

わさへ又百済國ふく北國より
は代と作りてとる王に
しき人あり音仁德仁德
多沙代乃のみのり
治ある代の采花とあり
北の事り
その核ひ多北の事り

ぬあひたりまきめて赤白
屋梅うるまは丹の鳥を
あまとりカント雪のつみの
いそらありく人あま
まらふ代より輓時
のねう目さし目難波の
もひり目浦いほれ目良声

く へ の 松 門 へ 入 る の 時
を 心 づ け ば 心 算 較 苦
む 難 波 へ 鳥 も 鳴 け ぬ 代 あり
ふ る 音 樂 や
時 の 調 子 へ 入 り て 言 葉 味 の
り せ ば 秋 風 果 然

い づ れ 秋 の 門 へ 入 り て 言 葉 味 の
り せ ば 秋 風 果 然
む 難 波 へ 鳥 も 鳴 け ぬ 代 あり
ふ る 音 樂 や
時 の 調 子 へ 入 り て 言 葉 味 の
り せ ば 秋 風 果 然

ひらく聖人一代又天下を
治る天下を治る方威ま
うたたま

氷室

ハ鴻毛にあ大君の
つぎう長岡兄
院子はくはら下也吾此はこハ
丹は国九世戸まとい
通あまは是より若狭路
ま紫乃後頼の山くも一

わろみ登の三登のこしあや

わろみ登のこしあや

氷と屋内は湯たるは湯とあや

仙家より紫雲紅雲とて樂の雲々

翳るるこしあや

海へより氷の地を供御の

あやぐみ

氷室の互に代りて

あやぐみ

あやぐみ

あやぐみ

氷室より備へり氷の地あり

又其の山陰の雲々霧も所々

たよりあり

陰も氷室なり

可^三と^一う^一行^一て^一深谷^三も^一さ^一る^一飛^一
谷^三宇^一氣^一使^一方^一さ^一く^一と^一文^一も^一
未^三代^一長^一入^一氷^一の^一地^一為^一丹^一波^一國^一桑^一田^一興^一
郡^三の^一氷^一室^一と^一室^一り^一戸^一あり^一宮^一と^一
翁^三中^一予^一と^一く^一山^一も^一前^一も^一木^一深^一寺^一陰^一
乃^三日^一影^一も^一さ^一ぬ^一深^一谷^一な^一ま^一反^一言^一憂^一
又^三も^一雪^一氷^一の^一消^一ぬ^一も^一又^一の^一理^一也^一

い^三や^一可^一よ^一う^一く^一氷^一の^一消^一ぬ^一も^一又^一の^一理^一也^一
君^三乃^一威^一え^一も^一あ^一兒^一は^一似^一たる^一唯^一
よ^三う^一常^一忠^一室^一氷^一ハ^一一^一夜^一の^一ぬ^一も^一の^一
ふ^三る^一ま^一反^一言^一さ^一る^一の^一ま^一反^一言^一の^一地^一
と^三を^一さ^一り^一反^一言^一も^一貴^一之^一の^一
袖^三り^一く^一し^一ま^一り^一氷^一の^一氷^一ま^一る^一と^一
く^三き^一り^一入^一る^一自^一の^一風^一や^一さ^一る^一と^一

水室

[illegible]

又此ノヤリフ
 云合テ昔ワキ
 セリフ云テモ
 ミテハウケズ

女も君を
 物の心
 王地
 恩徳あり
 皇
 土永
 帝
 輪常
 雨露霜雪
 時
 夏の日
 子

て吹く風はなほ万物時に有る
わが君の恵みは父よりておのれの
北山にけくや端山の枝にけく面
波面の下氷は寝しる雪は氷室
ちも本も大君忠御影よりそも
るにぞ我ありやの葉の浮をの
ぬるるあう御貢もろくして

天照の氷乃物や他もいとあはれ
敷威よりそ是敷玉手と地とも
河貢と軍子殿とや
さうさうのさうさうのさうさう
玉にけく手はさうさうのさうさ
乃たけあひたる山陰の古年の
あうさう雪はさうさうを搔

[illegible]

又天竺唐ナリテウタフモアリ

かゝるひかくと氷室の神
 氷と守護し目影とるそ氷を
 そき清風とすて花の如く雪と
 雲と凌ぎく山もわがもした
 かく急きやしも氷れおとほつ可も
 氷室の郡村の保洲も月もとれ君は
 三つ地よりそまに

月山

古野の花を種とるく月山
 急し^五 柝是ハ當今ハくち
 月とあり柝も月山の花と盛
 秋の月とありそ急かそとあれ
 そ乃宜旨と象の唯今月山へを
 急^上 候^也 月とありそ急かそとあれ

あや九重の^知内なる花車
 懐き西の^日のけ行雲の^山戸
 御^子の^心を^さる^るを^さる^るを^さる^る
 花の^龍の^心を^さる^るを^さる^る
 八^半つに^心を^さる^るを^さる^る
 ち^心を^さる^るを^さる^る
 い^心を^さる^るを^さる^る

是ハ龍山表花ニシテハ花ハ皆
 神本ニシテ花ハ陰ニ清メ陽作ニ
 シテ花ハ山ノ花ハ皆
 神本ニシテ花ハ陰ニ清メ陽作ニ
 シテ花ハ山ノ花ハ皆
 神本ニシテ花ハ陰ニ清メ陽作ニ
 シテ花ハ山ノ花ハ皆

早歲

ち〜風〜勝子子守〜
 非〜音高金瓦山人〜
 所〜
 相〜
 今〜
 真如玄月〜
 有〜
 流〜
 人升河具水〜

ふとくさくさしく花をまきよ
たゞのひるむらてく庭前
のふとばも秋風を吹く夏
想ふ事も暗ぬき今山桜長
閑さしの山風吹く枝あけ
沙月も既に花をまきよ
るに明りもきりけり山桜立

雲よりくさくさ陽の光を山に照らす
のりよりくさくさ陽の光を山に照らす
千々花の種入て山ありあけ
神ありてひる日さす神様ひるあて
なふさくさくさくさくさくさくさく
の子守勝子守恵子守恵子守恵
あふさくさくさくさくさくさくさく
小倉山より

龍王の御座る所の
 根子にありて龜山と云ふ
 代々しくわたりて千餘年
 神樂の輦声はよく
 といふ人々を驚かせし
 あつて感念する所なり
 吾等南の方より吹く風の異香

瑞雲飄飄金父の光輝なり
 我王権現の来現なり早希和光の如
 安希今光の如きなり
 段同后の塵より金胎の部の一
 思業の生る苦患を
 又虚空より揚て
 苦界の煩惱を掃く要戸降伏の青

蓮の咲くを明と称するに
花をともる誓ひを以て子守勝手
王権現一詩を方回詩異名に安んずるを
てふ言はるる山は攀登するに難き所なり
くつぐされりやも金に奪はるる
輝を千々に接するもや千々に
接の常行きくす一はま

早焚 祝詞

は早焚の神祭くぐりぬき
うそふに 相見は長門國早焚
乃明神を社敷の者多く相も
當社をひくは神事極く所應
中にも十二月二十日の社より
のりては社よりやう今夜寅の

うらもてやふへとも暮行ふ
 ありや有程や又秋津のうらに
 まひて神のたふすまふまふ
 早夜乃神まふ世界わたりて
 ちて芸藻の禮奠感應なる
 まりたれそふをさう乃手実
 塵はゆりねたふまふまふ

もあふふふふふふふ
 い結縁をなすふふふ
 く往來の秘え尾をたねねね
 海まふまふふふふふふ
 子向を捧る人影うらやいふ
 子向を捧る人影うらやいふ

新古今和歌集

ひよふふふに^日 西^ミ代^ミの^ミ昔^ミふ^ミ
^日 津^ミも^ミや^ミ夜^ミれ^ミ神^ミ奈^ミト^ミ魚^ミの^ミ身^ミま^ミち^ミ
^日 己^ミも^ミあ^ミま^ミる^ミや^ミ上^ミへ^ミ非^ミ想^ミれ^ミ雪^ミの^ミう^ミへ^ミ下^ミへ^ミ
^日 下^ミ界^ミれ^ミ神^ミ奈^ミト^ミ乃^ミ真^ミ衣^ミ袖^ミな^ミ
^日 乃^ミ兒^ミ津^ミ海^ミと^ミ陸^ミ路^ミな^ミあ^ミて^ミ津^ミ國^ミの^ミ長^ミ
^日 乃^ミ乃^ミ通^ミひ^ミ隔^ミて^ミも^ミあ^ミく^ミ海^ミ越^ミれ^ミま^ミた^ミる^ミ
^日 心^ミな^ミて^ミく^ミあ^ミく^ミ一^ミと^ミ言^ミや^ミ心^ミの^ミ

に^ミく^ミく^ミく^ミく^ミ 津^ミ結^ミ縁^ミを^ミ移^ミく^ミ人^ミ
^日 の^ミ願^ミひ^ミ乃^ミあ^ミる^ミ人^ミ 今^ミの^ミ行^ミき^ミう^ミ
^日 つ^ミま^ミ入^ミま^ミ村^ミ住^ミる^ミさ^ミく^ミ久^ミ堅^ミれ^ミ天^ミ津^ミ
^日 し^ミ女^ミの^ミ雲^ミの^ミ袖^ミ 乃^ミの^ミ花^ミ乃^ミ子^ミ向^ミ
^日 更^ミに^ミあ^ミく^ミく^ミく^ミ 海^ミ若^ミの^ミ身^ミ
^日 乃^ミ波^ミ路^ミの^ミ底^ミう^ミく^ミ 龍^ミ宮^ミの^ミ棒^ミ物^ミ天^ミ
^日 地^ミの^ミも^ミ乃^ミ湯^ミ作^ミの^ミ天^ミ津^ミし^ミ女^ミの^ミ雲^ミな^ミ

神燭振立てて鐘と寺で岩を
侍ひてみりて半町水底を
かきつるくはるく砂と塩とみり
本とく荒海とく波白妙の海
和田原天とく雪の煙の海
海上にさるく波の海とく
蛇行の龍宮とく入る

大科

下記の如く今月の神在月とて
雲國大社とて諸神の
影向あり。神事候あり。家
及て向叩く。諸仕候。朝立

神々君の
 隔々世々
 恵みありけり
 月影の
 代々思ふ雲の宮柱く廣敷
 たりて敷鴻乃屋に鴻根あり
 うこるぬ回る久敷定や記さふ
 ありて梢よりさるる子

太山邊の里もなるとまゝ
 上杉雪洞大社三十八社
 と勸法の地あり
 皇子たりしもの才三の
 大明神に祈る子山王権現是也
 才二の奏の大明神
 九の字像
 八明神に祈るもの才三あり

神タマシ・袖タマシ・ひ・ひ・名・雪・の・た・い・は・う・る・は
神タマシ・の・物・は・現・ま・給・ひ・舞・子・と・奏
し・神タマシ・前・に・あ・り・し・も・疾・婆・と
知・る・と・の・月・も・雪・時・て
多・も・純・の・玉・磨・輝・て・神・神・現・ま
あ・り・し・も・た・る・や・た・る・は・神・相・好
く・目・下・あ・る・神・徳・と・受・る・も・云・の

惠・の・は・世・夜・花・の・神・系・要・さ・る
所・は・神・人・と・慰・め・る・神・樂
の・後・に・古・康・鴻・流・方・塊
因・り・其・が・三・千・世・界・の・神・神・の・家・に
影・向・あ・る・も・く・乃・小・名・の・神・を
そ・面・白・や・年・子・の・人・の・時・を・そ・く
之・行・月・を・さ・る・雪・の・中・に・暴

大社

早笛

凡吹立反ハ海龍王ハ出現ハや早苗
 相見ハ海龍王ハとハ秋ハありハ相ハま
 毎年ハ龍宮ハよりハ金匚ハ箱ハ子ハ少龍ハを
 入ハ神ハ前ハ子ハ相ハありハ音ハ神ハ則ハ
 破ハきハくハ反ハとハ相ハひハ朝ハを
 眼ハをハ行ハくハあハうハくハ箱ハとハまハ入ハ直ハ神ハ
 前ハとハ相ハありハ湯ハにハちハりハ其ハ時ハ音ハ神ハ

下箱の蓋と。右打也
たてふ。少音
とみ。見神前子。海陸
くはに代つ。定方。秘文惠又水。公手
同ト
四海安んじ。西作し。富安入玉り
酒造り。か穀成就福壽圓滿了
金君とらるへいこよ。白子。のり
す。くま。は。を。拂ひ。あき。

大社

乃木山ノ神也。龍ノ神也。地ノ神也。水ノ神也。火ノ神也。風ノ神也。土ノ神也。天ノ神也。地ノ神也。龍ノ神也。鳳ノ神也。麒麟ノ神也。白虎ノ神也。朱雀ノ神也。青龍ノ神也。玄武ノ神也。諸神ノ神也。虚空ノ神也。多満ノ神也。一ノ神也。二ノ神也。三ノ神也。四ノ神也。五ノ神也。六ノ神也。七ノ神也。八ノ神也。九ノ神也。十ノ神也。神ノ神也。社ノ神也。龍ノ神也。海ノ神也。中ノ神也。入ノ神也。

下係之音曲先年白番雖令
板門進龍謡教番因有脱落之
追願亦今亦後白番令用板者也
章句声付不順味意所可有
付之學士有効受次南都位改正之

貞享三曆丙寅

京都 吉田徳共清満正
西森六兵衛改春

霜月吉日

江戸 次原義経清満春

